

2018-19 年度レギュラーコースカリキュラム報告 —アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの集中日本語教育—

佐藤 有理

1 はじめに

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターでは、1) 10カ月間にわたるレギュラーコース、2) 夏期集中コース、3) 夏期漢文コースの三種類の集中日本語教育が行われている。本稿は、1) の10カ月間にわたるレギュラーコースについて報告するものであり、その他のコースについては下記を参照されたい。(夏期集中コース、夏期漢文コース)

レギュラーコースの期間は、2018年9月3日に始まり、2019年6月7日までの40週間で、学生数は56名(うち博士課程19名修士課程18名その他19名)で、教員は常勤教員9名、非常勤教員8名で指導にあたった¹⁾。

2 レギュラーコースの概要

40週間のレギュラーコースは4学期に分かれ、各学期の間には休みがある。1学期は、9月3日から10月26日までの8週間、2学期は11月5日から12月21日の7週間、3学期は1月15日から3月8日までの8週間、4学期は3月25日から6月7日までの11週間である(表を参照)。1学期と2学期を「前期」と呼び、3学期と4学期を「後期」と呼んでいる。主に、前期は、日本語の構造や知識の習得に比重がおかれ、後期になるに従い、各学生の専門や関心領域に近い内容に焦点が置かれたコースを選択することが可能になるという点に違いがある。また、午前が、文法等の言語の形式面を重視するが、午後は、聴解、聴読解、発話等の総合的な言語の運用力を高めることを目的としている。そのため、「前期」にあたる1学期の午前は「文法」「接続表現」、午後は「総合運用Ⅰ」となり、2学期の午前は「待遇表現」「統合日本語Ⅰ」、午後は「総合運用Ⅱ」となり、ここまでは全学生共通である。後期にあたる3学期は、午前は「統合日本語Ⅱ」が共通であるが、「選択A」「選択B」、午後の「総合運用Ⅲ」は各学生が自分の関心領域に合わせて科目を選択することができる。さらに4学期の午後は「プロジェクトワーク/N1・N2クラス授業」のどちらか希望するものを一つ選択することができる。

1年を通し、午前は月曜日から金曜日までの10:00から11:50まで1コマ50分を2コマ(途中休憩10分)とし週に10コマ、午後は水曜を除く13:20から15:00まで1コマ50分を2コマとし週に8コマ授業を行った。ただし、4学期午後のみ例外とする(6-2で詳述)。

表 2018-2019 年度 40 週間のレギュラーコース日程

週	10:00-11:50 午前クラス授業	13:20-15:00 午後クラス授業 水曜は午後のクラスなし	
1	オリエンテーション・試験・面談	オリエンテーション・面談など	↑
2	文法 Japanese Grammar	総合運用 I Applied Japanese Skills I	
3			
4			1学期
5			9/3-10/26
6			8週間
7	接続表現 Conjunctive Expressions		
8			↓
9	秋休み 1 週間 10 月 27 日(土)～11 月 4 日(日)		
10	待遇表現 Formal Expressions	総合運用 II Applied Japanese Skills II	↑
11	統合日本語 I IJ: Integrated Japanese Advanced Course I		
12			2学期
13			11/5-12/21
14			7週間
15			
16			↓
17-19	冬休み 3 週間 12 月 22 日(土)～1 月 14 日(月)		
20	統合 日本語 II IJ II	総合運用 III Applied Japanese Skills III	↑
21			
22			3学期
23			1/15-3/8
24			8週間
25			
26			
27		個人面談	↓
28-29	春休み 2 週間 3 月 9 日(土)～3 月 24 日(日)		
30	統合 日本語 III IJ III	プロジェクトワーク/ N1・N2クラス授業/個別指導 Project Work/N1・N2 Class	↑
31			
32			
33			4学期
34			3/25-6/7
35	GW 休み 1 週間 4 月 27 日(土)～5 月 6 日(月)		11 週間
36	統合 日本語 III IJ III	プロジェクトワークなど	授業は実質
37			8週間
38			
39	試験5/27月、発表準備	試験5/27月、発表準備	
40	発表6/3-5月火水、面談6/7金	発表6/3-5月火水、面談6/7金	↓

3 1 学期の教育内容

午前には「文法」を5週間、その後の2週間は「接続表現」にあて、午後には「総合運用 I」を6週間実施した。

3-1 午前の内容

3-1-1 文法

入学直後の1学期午前では、中級学習者にとって理解が難しく誤りやすい文法事項を取り上げ、知識を整理し正確さを高めながら運用力を向上させた。市販教材『レベルアップ 日本語文法』（くろしお出版）、『*Japanese Grammar*』（本センター作成）のどちらか一方を、各クラスの日本語習熟度に応じて使用した。聴解・会話強化の補助教材として『*An Introduction to Advanced Spoken Japanese*』（本センター作成）を使用した。また、敬語とその随伴行動の学習準備として「プレ待遇表現（動画スキット全4回）」（本センター作成）を導入した。午前21日間42コマをこの指導にあてた。

3-1-2 接続表現

接続詞に注目し、文と文の接続、段落や文章の組み立て方（複段落の作成）について指導した。教材として『接続表現』（本センター作成）を用いた。午前9日間18コマをこの指導にあてた。

3-2 午後の内容

3-2-1 総合運用 I

午後の授業「総合運用」は主として、読解、聴解、発話などの技能面に焦点をあて、文字通り総合的な日本語運用力の向上を目指した。第1学期は身近で日常的な話題を扱った「経験談」という単元から開始し、自然な話し方に慣れるとともに、既習の文法事項などを総合的に活用する機会を提供した。続いて新聞やニュースを教材とする社会性をおびた単元に進み、日本事情や時事的話題に関する語彙・表現の習得と運用力向上を促した。今年度は「毎日のスキル」と名付け、読解スキルの強化を目的に、各クラスで10分間程度を問題演習の時間にあてた。具体的には、日本語能力試験の過去の問題や対策問題を中心に、クラス裁量で1問選び解かせた。その後、解答の答え合わせの他に、文の構成や文法、表現に着目したフィードバックを行う活動を取り入れた。また、授業時間内に漢字の統一テスト（8-2参照）も1回実施した。午後19日間38コマをあてた。

4 2学期の教育内容

午前に「待遇表現」を2週間、その後「統合日本語Ⅰ」を5週間、午後に「総合運用Ⅱ」を7週間実施した。

4-1 午前の内容

4-1-1 待遇表現

最初の2週間は、円滑な人間関係を構築できるよう、敬語とその随伴行動、社会慣習、礼儀、挨拶などを含めた言語行動を取り上げた。主教材として『新待遇表現』（本センター作成中）を用いた。この待遇表現の指導に午前10日間20コマをあてた。

4-1-2 統合日本語Ⅰ

一般的な中級段階の日本語から、より高度で専門的な日本語への橋渡しをするために、『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』（本センター作成）を用いた。各課は同一の話題をめぐる「文章編」と「会話編」からなり、「文章編」では読解練習とそこで扱われる文型・語彙・表現を学び、「会話編」では自然な話し言葉を状況に応じて使い分けられるよう指導した。2分冊の上巻第1～3課を2学期に、下巻第4～5課を3学期に扱った（5-1-1「統合日本語Ⅱ」参照）。午前23日間46コマを統合日本語Ⅰの指導にあてた。このうち12/19の午前2時間をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅰ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。

4-2 午後の内容

4-2-1 総合運用Ⅱ

現代社会の問題をめぐる生教材、つまり読み物と関連ビデオ（例えば報道番組）などを読解・聴解し、話し合いを重ねることによって、類似した一般的な話題についても日本人と話し合える能力獲得を目指した。この総合運用Ⅱでは、話題シラバスのモジュール型教材群「外国人と国籍」「文化の発信」「ものづくり」「教育」「現代の若者たち」「働く女性」「地球環境」「差別と人権」の中から学生の興味や関心あるいは必要性に応じて教材を選び、各クラスの理解度に合わせて授業進度を調整した。ただし、「外国人と国籍」に関しては全クラス必修とした。また、総合運用Ⅰに引き続き、読解スキル強化を目的とした「毎日のスキル」を10分間程度取り入れた。午後26日間52コマを総合運用Ⅱの学習指導にあてた。このうち、授業内で、漢字の統一テストも2回行われた。

5 3学期の教育内容

冬休みが明けた1月から第3学期が始まり、この学期から、各学生の専門・興味・関心・必要性に応じた選択授業が増える。午前は、月曜と火曜に統合日本語Ⅱ、水曜日と金曜日に選択A、木曜日に選択Bを、午後は総合運用Ⅲを実施した。また水曜午後と木曜放課後に随意科目の選択Cを設けた。

5-1 午前の内容

5-1-1 統合日本語Ⅱ

3学期に全学生が共通の教材で学ぶ授業はこの「統合日本語Ⅱ」のみである。週2日『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』（本センター作成）下巻を教材に実施した。3学期最終週の授業2日間（3/4と3/5）をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅱ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。3学期の月曜と火曜の午前14日間28コマ実施した。

5-1-2 選択A

3～4学期の午前週2回、各学生は、自己の専門領域に関連するコースを1つ選び、将来の学術研究や専門実務に資する言語面の能力育成に取り組んだ。学生には3～4学期を通じて同じコースを継続履修するよう奨励した。例年、コース選択に迷う学生がいるため、「選択Aコースお試しクラス」と称して2学期の授業内午後1日（11/22）を利用して体験受講の機会を設けた。本年度の開設コースは「文化人類学」「政治経済」「美術史」「文学」「歴史」「法律」「日本学概論」の7コースとした。水曜と金曜の午前に3学期に15日間30コマ、4学期に16日間32コマをあてた。

・文化人類学

3学期は「フィールドワークと方法論」「当事者研究」「ジェンダー」「日本人論とナショナリズム」をテーマに設定し、具体的な事象から抽象的課題に至る専門性の高い読み物を教材とした。4学期は各学生が自己のテーマにそった素材を提供し話し合いを進め、校外学習も行った。「医療人類学」「当事者研究」「ひきこもり」「アニメ巡礼」「若者言葉」「歴史修正主義」「オーセンティシティ」「漫画やアニメにみられる家族像」「男性美容」などがテーマとしてあげられた。

・政治経済

3学期は日本の大学生向けの教科書を使って、日本政治や国際政治経済に関するテーマを取り上げた。クラスでは読み物の内容確認、単語クイズ、議論などを行い、専門用語の

定着を図った。4 学期は学生の意見を取り入れ「北方領土」「アジアと中国」「SDGs」「沖縄の基地」などのテーマを扱った。担当者がディスカッションポイントを提示して話し合いを進める形で授業を行った。校外学習では、国会議事堂、弾劾裁判所、領土主権展示館、グローバル・コンタクト・ネットワークを訪問した。また、学外講師を招き、「日本における起業」というテーマで講演を行った。

・美術史

明治時代に形成された「日本美術史」という概念をまずおさえた上で、美術史特有の専門用語や概念、作品分析、イメージの読み解きなどを行った。また、各学生の研究テーマに関する論文を学生自身が選び、議論した。「日本美術誕生」「明治の美術行政」「視線のポリテイクス」「美術とジェンダー」「身近凶像学」「明治の日本美術論」「写真論」「人形浄瑠璃と道行」「能・狂言」「国際的同時代」「60年代の映画論」「宝塚歌劇団の演出」などのテーマを扱い、開始時と終了時には各自の研究を紹介し、具体的な描写と抽象度の高い概念を織り交ぜ表現することに焦点を当てた。

・文学

明治から現代までの短編小説および関連する評論を取り上げ、様々な観点から作品を分析し、話し合いを行った。おおむね2～3回の授業で1作品を読んだ。

・歴史

日本語で歴史研究を進めていくための基礎訓練を積み重ね、語彙・表現の拡充を図った。3 学期は学生の興味・関心・必要性に応じて、専門書および一次史料を素材とする読解練習を行った。4 学期は各学生の個別テーマに関する論文の読解と話し合いなどを実施した。また、横浜市中央図書館、国会図書館、国立公文書館で、見学、資料検索の体験も行った。

・法律

憲法、民法を中心に、刑法、国際法、知財法、会社法等、学生の興味に合わせて、その基本的内容を判例も用いながら指導し、条文・判例を自力で読解できる技能を育成した。また、日本大学法学部大学院のゼミ聴講、裁判所・検察庁見学等の活動を授業と結び付ける形で行った。

・日本学概論

専門が定まっていない学生、幅広い分野の日本語力を追及したい学生などを対象に設けられた選択科目である。選択 A の分野を中心に日本研究や日本についての多種多様な教材を用い、知識を蓄え、理解を深めたのち、互いに話し合うことで日本語力の充実を図った。

5-1-3 選択 B

選択 B では必要とされる、あるいは弱点と思われる日本語力の増強のために「話す（議論／発音）」「読む（速読）」「聴く（精聴／即聴）」「書く」「ビジネス日本語」のコースを開講した。今年度は「話す」コースを復活させ、選択希望の聞き方を変えるなどした。3学期は木曜の午前8日間16コマをあてた。

・話す（議論）

日本ディベート協会のテーマ、時事問題、学生自身のテーマについて議論を行った。各議論に司会者1名を立て、議論を仕切らせた。議論のほかに発音・イントネーション練習、表現練習を行った。議論を録画したビデオを用いて自身で振り返り作文を書かせた。

・話す（発音）

発話力の弱い部分を補い、発音を直すことに集中した。具体的には、様々な教材の視聴覚資料を用いて問題を意識化した上で、その練習を行い、各学生の発音を録音したものを聞きなおし振り返った。

・読む（速読）

トップダウン処理を苦手とする学習者を対象に、その訓練を行った。未習の語彙・表現がある読み物を制限時間内に読むことが求められ、推測をしながら理解をすることができるよう、ピア学習の手法も取り入れつつ、推測過程それ自体に焦点をあてて学習を行った。

・聞く（精聴）

2分程度のニュースや情報番組、そして一部映画等の精聴練習を積み重ねた。聞き取り対象のキーワードを整理した上で、聞き取った音声と漢字表記を結びつけるなどの作業をしながら、正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを作成した。

・聞く（即聴）

準備なしで視聴したものについて、質問、確認、再生、まとめ、意見表明などその場で即応することを目標とした。毎回、10分の独話による解説を1つ、討論、インタビュー、会話などの共話から1つを題材とした。

・書く

随筆から小論文まで、目的に合った幅広い文章表現力の習得を目的とした。毎週、宿題として各種の文章を書き、授業ではそれを全員で検討・批判しあい、日本語らしい文章の

書き方と推敲の技術について考察した。

・ビジネス日本語

就職活動を考えている学生を対象とし、面接練習、メールの課題提出などを通して、事例に即した解説を加えながら実践指導をした。また、選択Cの「ビジネス」と連携し、模擬就職面接を行った。(5-2-2「選択Cビジネス」参照)

5-2 午後の内容

3学期の午後は「総合運用Ⅲ」とし、「現代史」「大衆文化」「ビジネス・社会」の3つの中から1コースを選択する。どのコースも、読み物を理解したりビデオを視聴したり、さらにその話題について討論をするなどの諸活動が盛り込まれている。午後25日間50コマを総合Ⅲの学習指導にあてた。そのうち、漢字統一テストが2回(1/21、2/18)、全学生を対象とした講演会が2回(2/14、2/15)授業内で行われた。

5-2-1 総合運用Ⅲ

・現代史

ムービーフィルムが残されている1900年前後からの日本の歴史を、「戦前の日本1900-45」「敗戦と復興1945-55」「高度成長1955-70」「現代の日本1970-95」の4期に分け、ビデオと読み物で概観した。また、1995年以降の現代日本について、各学生が興味を持ったテーマで発表を行った。

・大衆文化

広い意味での日本の“大衆文化”に関して日本人と話せるようになることを目標とした。「CM」「マンガと教育」「映画とオタク」「言葉と音楽」というテーマで資料を読み、話し合った。また、コース最後には、「これって文化」というテーマで学生各自が発表した。

・ビジネス・社会

バブル経済の前後における企業や政府、さらに社会や人々の暮らしの変化を、戦後史にも触れながら追っていった。「バブル前と後」「創業者と起業家」「アベノミクス」「自動車産業」「マネーの行方」などの話題を取り上げた。

5-2-2 選択C

3・4学期の随意選択科目として「文語文法」「漢文」「ビジネス」の3コースを開設した。このうち「ビジネス」は外部から招いた専門家が指導に当たった。

・ 文語文法

文語文法の用語や歴史的仮名遣いから導入し、動詞・形容詞・助動詞の指導に進み、文語作品の部分的読解も並行して行った。木曜 15 時 10 分～16 時 50 分に開講した。

・ 漢文

日本人が書いた漢文や漢文体の素材を取り上げ、読み下しと解釈の練習を行った。まず漢文の基礎構文をおさえ、それを応用して短い文章を読んだ。水曜 13 時 20 分～15 時 00 分に開講した。

・ ビジネス

「日本の産業と金融」を主題に、新聞や雑誌の記事を素材として、ビジネス界の実情にも触れながら、日本経済の現在に至る経緯を紹介し、今後の展望と課題について講義した。選択 B「ビジネス日本語」と連携する形で、模擬就職面接を実施した。(5-1-3「ビジネス日本語」参照) 毎週木曜の 15 時 15 分～16 時 15 分に、元神奈川経済同友会の湧井敏雄氏が指導に当たった。

6 4 学期の教育内容

プログラム最後の 4 学期の午前は、3 学期午前と同様の形態をとる。月曜と火曜は「統合日本語Ⅲ」、水曜と金曜に「選択 A」、木曜に「選択 B」となる。「選択 A」は同じ分野を 3 学期から継続履修するが、「選択 B」は「現代小説」「日本文化論」がコースの選択肢として加わる。また、4 学期の午後は「プロジェクトワーク」「日本語能力試験 N1・N2 クラス」のどちらか 1 つの学習形態を選択し学習を進めた。

6-1 午前の内容

6-1-1 統合日本語Ⅲ

4 学期の月曜と火曜の 2 日間は、日本語のおもに形式面の補強・拡充・総仕上げを目指した。各クラスで、学生の到達度、興味、要望に応じて各種の教材を選択・補足し、内容に関連した発話活動などを通じて、既習事項を総ざらいし日本語の知識をより確実なものにするとともに、上級日本語話者が知っておくべき事項の欠落箇所を補うなどした。15 日間 30 コマをあてた。授業内で漢字統一テストを 2 回実施した。

6-1-2 選択 A

3 学期と同じ分野を継続履修する。16 日間 32 コマをあてた。(5-1-2 参照)

6-1-3 選択 B

4 学期の木曜は 3 学期と同内容の「話す（議論）」「聞く（精聴／即聴）」「ビジネス日本語」に加え、「読む（精読）」「日本文化論」「現代小説」の 7 コースを開設した。3 学期同様日本語力の増強を図ることも可能であるし、また、まとまった内容のものを読むということで「日本文化論」「現代小説」を選択することもできる。8 日間 16 コマをあてた。（3 学期と同内容のコースについては 5-1-3 参照）。

・読む（精読）

300～400 字程度の短めの文章（毎回 4 つ程度）を素材として、そこに書いてある内容を正確に読み取る練習を積み重ねた。授業では、一文一文の正確な理解から、文と文の関係の理解へと進んだ。音読の活動も取り入れ、意味が伝わる読み方も練習した。

・日本文化論

青木保著『日本文化論の変容』を素材とし、各学生が担当箇所を分担した。担当者は事前にレジメを作成し、発表と話し合いを行った。本文で著者が引用した文献を追加資料として配付し、内容理解の不十分な点を確認した。

・現代小説

現代作家による短編小説を毎週 1 作品ずつ取り上げた。授業では予習を踏まえて学生間の議論を促し、作品の「読み」を相互に深めあった。教材として、村上春樹、向田邦子、宮部みゆき、川上弘美、綿谷りさ、大江健三郎、筒井康隆、江戸川乱歩の短編を扱った。

6-2 午後の内容

4 学期の午後は「プロジェクトワーク」「日本語能力試験 N1・N2 クラス」のどちらかの学習形態を選択して学習を進めた。

・プロジェクトワーク

プロジェクトワークでは、各学生が自己の専門や興味ある分野の主題を選び、その内容に比較的詳しい教員から毎週 1 コマ 50 分間個別の助言を受けながら、調査研究や文献の読解などを行った。今年度は 31 名の学生が選択し、テーマに関しては、卒業発表会の内容と重なる部分が多いので、そちらを参照されたい（7 卒業発表会を参照）。学生 1 人につき午後 8 日間 8 コマを指導にあてた。

・日本語能力試験 N1・N2 クラス

日本語能力試験 N1・N2 レベルの文型の習得を目指して、1 回 2 コマのクラス授業を週

に2回、午後16日間32コマ行った。市販の問題集を使用して文型の知識増強を図り、語彙クイズ、復習クイズ、模擬試験を行った。

7 卒業発表会

卒業発表会は10カ月間にわたる学習の集大成となる催しである。全学生が、来賓と全教職員学生の前で、質疑応答を含め1人15分の持ち時間内で、やや改まった形式の発表をした。

4学期の午後の授業がプロジェクトワークの学生は、その時間内に卒業発表の準備を進めた。日本語能力試験N1・N2クラスの学生はミニ発表会(2・3学期の「統合日本語」)などで話した内容を洗練させるなどして卒業発表に仕上げた。N1・N2クラスの各学生には1人2コマ分、原稿のチェックと発表の予行演習を個別指導する教員を割り当てた。

本センターのウェブサイト「卒業発表会内容紹介」ページでは過去の年度も含め、題目と要旨を公開しているので参照されたい。https://www.iucjapan.org/html/presentations_j.html

8 通年で実施した学習指導と行事など

8-1 評価

8-1-1 テスト

本プログラムでの学習成果を測定するため、入学直後と卒業時に実力試験を実施した。読解と漢字の試験、聴き取り試験、面接形式での発話テストを、入学・卒業時に共通して実施し、入学時にのみ文法と作文のテストを加えた。作文に関して、今年度は、辞書を持ち込み可とし1時間以内にその場で書かせた。

また、年度途中での伸びや弱点の確認の目的で、10カ月コースの半分にあたる2学期の終わりの授業内に、漢字、読解、聴解の全問マークシートの実力テストを実施した。

8-1-2 個人面談

試験結果をもとに1学期のクラス(午前・午後各8組)を編成するとともに、午前のクラス担任教師は、コース開始に先立ち、午前クラスで受け持つ各学生と個別に面談し、試験の結果を踏まえ40週にわたる学習の指針などを助言した。1学期末にも午前のクラス担任と各学生とが個別に面談し、その間の学習ぶりを振り返り、新たな課題を設定するなどした。

このような教師と学生の個人面談の機会はその後も各学期末に設けている。2学期から4学期に至るいずれの学期末も面談はそれぞれ午前のクラス担任が行った。クラスは学期

ごとに午前・午後とも必要性を考慮した上で可能な限り編成替えをし、新鮮な気持ちで学習に臨める雰囲気維持を図った。

8-2 漢字プログラム

プログラム期間を通じて、常用漢字習得のための自律学習プログラムを実施している。教材として本センター編集発行の市販教材『*Kanji in Context*』『*Kanji in Context Work Book vol. 1・2*』（ジャパントイムズ社）を用いる。これは漢字を単独ではなく、熟語や例文と共に学習できる内容構成となっており、学生は常用漢字すべてを卒業までに習得できるよう、毎日教材を独習し、授業以外の時間にクイズ 156 回を受けることとなっている。さらに漢字学習を促すため、Web アプリケーション「WebKIC」が作成されており、学生は自分の進度に合わせて、漢字習熟度を確認することができる。また、これを利用して「KIC 統一試験」を作成し、実施している。

統一試験は、漢字の書き方、読み方等を答えるという問題 100 問を全学生が受け、点数が 8 割未満の場合は再試験を受けなければならない。今年度は、毎学期 1～2 回、計 7 回授業内で実施した。この統一試験により、漢字学習が習慣化し、クイズの修了率が以前に比べて向上した。

また、統一試験前に希望者に対し漢字の書字指導を 4 回行った。漢字クイズ採点者が試験範囲の漢字を中心に、よく学生が書き間違えるポイントを示しながら指導した。字形への認識が高まったなど好評であった。

8-3 講演会、校外学習、各種の企画や催し

全学生を対象とする講演会を 4 回（12/13、2/14、2/15、5/21）、全学生が参加する校外学習を 2 回（10/1、2/8）開催した。また、選択必修コース授業の一環としてコースで独自に実地見学におもむくなど様々な学習機会を設けた。各種の催しは実施順に本稿末の資料に一覧としてまとめた。この表には、本センターが主催した行事をはじめ、相手方の団体から招待を受けて本センターが学生に参加を呼びかけた催事を記載した。

以上の催し以外に、希望学生を対象とした課外活動「書道」「古筆」「茶道クラブ」を設けた。「書道」「古筆」のコースは書家の小林紘子氏が担当した。「書道」は年間を通じて週に 1 回 15 時 15 分～16 時 45 分に実施し、「古筆」は後期のみ書道終了後に実施した。「書道」のコースは、書の心得や筆の運び方などの基本から伝授し、最終的には自作の落款付き作品を仕上げ、掛け軸に表装したものを卒業発表会場に展示した。「古筆」は手書きの古典文献を理解するのに欠かせない「くずし字」の読解練習を段階的に進めた。

「茶道クラブ」は初心者向けの裏千家学校茶道で、3・4 学期に設けた。専任講師資格を有する本センター講師が担当した。真・行・草の礼に始まり、畳の歩き方、床の拝見の仕方、割り稽古と進み、点前の習得を目指した。また、茶席では、茶道に関連した軸、花、茶碗、

歴史などについて説明した。

9 おわりに

微細ながら今年度に新たに取り組んだこともここでまとめておく。時系列を追えば、入学前の全学生に課される「夏休みの宿題」の確認クイズの義務化、入学時の作文テストの短時間化、総合運用Ⅰ・Ⅱでの「毎日のスキル」の導入、総合運用Ⅱの教材の改訂、バーチャル掲示板の導入、年度末アンケート回答の義務化等である。いずれも小さなことではあるが、こうした積み重ねを一つ一つ検証し、センターのカリキュラムがより良き方向へと向かうよう検討を進めていきたい。

また、今年度はカリキュラムを支える存在である教員に大きな変動があったことも指摘しておきたい。まず、これまで長年センターの中心的立場にあった教員2名が定年退職し、更に年度の途中で1名が退職するなど、昨年度と比べて専任教員の3分の1が入れ替わったことの影響は大きい。カリキュラム編成、学生指導体制にもその影響は小さくなかった。しかし、新たに入職した教員の努力、またそれを支えるベテラン教員の尽力もあって何とか無事に10カ月のコースが終わったことに心より感謝したい。

今年は12月に外部調査が入り、調査員の方々のご意見をうかがうこともできた。今後はそれらの意見を踏まえ、先人が培ってくれたセンターの良い面は失うことなく改革を進めていきたいと強く思う。

(さとう あり／本センターレギュラーコース言語課程主任)

注

- 1 年度の途中である3学期と4学期の間で、常勤教員、非常勤教員、教材助手の変更があった。常勤教員は1名が退職し、新たに1名が着任した。非常勤教員に関しても、1名が休職し、新たに2名が着任した。学生に関しては1名がコース途中で中退した。

【資料】2018-19年度 通常授業以外の各種イベント

2018年

- | | | | |
|-------|-----|--------------------|--------------|
| 9月9日 | (日) | 国立能楽堂 | 能・狂言 |
| 9月10日 | (月) | 防災説明会 | 避難訓練 |
| 9月14日 | (金) | 入学歓迎親睦会 | |
| 9月14日 | (金) | 野毛にぎわい座 | 高橋キヨ子 民謡のこころ |
| 9月22日 | (土) | 研究ネットワーク (領域越境研究会) | 主催 江戸の歴史ツアー |

- 9月23日 (日) 国立能楽堂 白翔會特別講演—日本の心を世界へ—
- 10月1日 (月) 校外学習 日米協会 アメリカ研究者の集い、三溪園・八聖殿
- 10月7日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 10月7日 (日) 鶴岡八幡宮 流鏑馬
- 10月8日 (月) 岩間市民プラザ 立川晴の輔定期落語会
- 11月3日 (土) 横浜市立大学学園祭
- 11月11日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 11月23日 (金) ~25日 (日)
 一般社団法人 KIP 知日派国際人育成プログラム
 UNICOM2018 第3回大学生国際会議 in 三重
- 12月3日 (月) 卒業生カール・パイザー氏就職相談会
- 12月7日 (金) 文楽鑑賞教室
- 12月13日 (木) IUC レクチャー・シリーズ
 ケント・カルダー氏 (IUC1975年卒業生)
 「グローバル政治都市 ワシントンの中のアジア—その戦略的攻防 2018」
- 12月14日 (金) YOKE 地球市民講座 IUC 紹介と交流会
- 12月16日 (日) 鶴岡八幡宮 御神楽
- 2019年
- 1月16日 (水) フルブライト事務局サスマン氏交流会
- 1月30日 (水) 日本財団奨学金受給生前期発表会
- 2月8日 (金) 第8回大倉山国際学生フォーラム横浜 2019 横浜市大倉山記念館
- 2月14日 (木) 藤崎元駐米大使講演会
- 2月15日 (金) 映画「おクジラさま」
 トークショー杉岡大樹氏・ジェイ・アラバスター氏
- 2月20日 (水) 歴史、美術クラス校外学習 横浜市立中央図書館
- 2月27日 (水) 法律クラス、日本学概論クラス校外学習 横浜地方裁判所傍聴
- 3月3日 (日) 高橋きよ子ディナーショー
- 3月4日 (月) ・6日 (水)
 横浜市立大学日本体験プログラム
 「和綴じ」「義太夫」ワークショップ
- 3月6日 (水) ソルバーネットワーク株式会社説明会 代表取締役安達哲男
- 3月8日 (金) 文化人類学クラス校外学習 キリンビール工場
 政治経済クラス校外学習 国会議事堂、弾劾裁判所、領土主権展示館
- 3月10日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 3月11日 (月) 能ワークショップ
- 3月29日 (金) 歴史クラス校外学習 国立公文書館
- 4月10日 (水) 日本国際化推進協会 就職活動セミナー
- 4月18日 (木) ロータリークラブ卓話
- 4月24日 (水) 株式会社アンビジョン 就職説明会
- 4月26日 (金) 歴史クラス校外学習 国会図書館
- 5月10日 (金) FSI 座談会

- 5月17日 (金) ~19日 (日)
下田市主催「黒船祭」
- 5月21日 (火) IUC レクチャー・シリーズ
セス・サルキン氏 (IUC1991年卒業生)
「日本は真に資本主義か?文化と伝統が不動産市場に与える驚くほどの影響」
- 5月24日 (金) 日本財団奨学金受給生後期発表会
- 5月29日 (水) 政治経済クラス校外学習 グローバル・コンタクト・ネットワーク
- 5月31日 (金) 法律クラス校外学習 国会議事堂、東京地裁
- 6月3日 (月) ~5日 (水)
卒業発表会
- 6月7日 (金) 卒業祝賀会
- 6月8日 (土) 鎌倉鶴岡八幡宮 蛍放生祭